

---

# 交錯する世界

如月弥生

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

交錯する世界

### 【Nコード】

N4065BA

### 【作者名】

如月弥生

### 【あらすじ】

ある世界の、とある少女は、大切な友達の為に時を遡る。  
ある世界の、とある少年は、大切な相棒の為に死線へ飛び込む。  
これは、そんな2人が居る2つの世界が、交錯した物語。

この小説は、魔法少女まどか マギカと、TRPG「ダブルクロス」のクロスオーバー作品です。

不定期更新です。

## プロローグ（前書き）

なんか小説書いてみたくてやってしまいました。  
駄文だと思いますが、読んでくださると嬉しいです。

（ダブルクロスというのは、ファースト・アミューズメント・リサーチ（F・E・A・R・）が出版しているTRPG作品の一つです。

まだマギと設定が似ていると言われていたので、合わせて見ました。  
）

おそらく不定期更新になると思われます。

## プロローグ

「また．．．．．助けられなかった．．．．．」  
弱々しい声が響く。

その声の主である黒髪の少女は、泣いていた。

周囲には、まるで戦争でも起こったかのような惨状が広がっている。  
そんな中、少女は独り泣いていた。

やがて少女は立ち上がる。

その瞳に再び決意を秘めた焰が灯る。

そして、少女は意を決したように傍らの宝石に触れた。

それと同時に少女の服装は変化し、その左手には中央に砂時計の付いた円形の盾が装着されていた。

（次こそ．．．．．次こそ必ずあなたを救ってみせる．．．．．）

盾に手を当て、回転させる。

瞬間光が少女を包み、光が晴れると、少女の姿は忽然とその場から消えていた。

東京近郊、美傘市。

再開発によって近代的な街になったその場所の中心街で、一つの戦争が行われていた。

原型も留めず破壊された建物、地に伏し動かなくなった人、地に穿たれたクレーター。

そんな惨状の中、既に人外の姿に変化した男と、10代半ばの少女と少女が対峙していた。

「ッ！！！！！！！！！！」

男は、もはや言語ですら無い叫びを上げる。

その叫びに呼応するかの如く、地面は裂け、衝撃波が周囲を風いだ。並の人間が受ければまず命はないであろうそれを受け、少女を庇った少年の腕がもぎ取られる。

しかし、数秒と経たないうちに腕は元通りに復元され、僅かな傷を残すのみとなった。

リザレクト。

オーバーード

彼ら超人のみが持つ人外の再生能力だ。

「唯、大丈夫？」

受けた傷を癒しながら、僕は傍らにいる相棒、滝沢唯の安否を確認する。

オーバーードならリザレクトできるし、そもそも僕が庇ったので傷ひとつ無いはずだが、念のためだ。

「うん。侑くんは？」

「僕も、問題ないよ」

敵の動きに気を配りながら、目を合わせお互いの無事を確認する。

状況は、最悪だ。

先程からこちらでも攻撃を当ててはいるものの、致命傷には程遠い。対するこちらでも攻撃を防いでいるものの、侵食率的な消耗が激しい。

このまま戦えば二人共死ぬかジャーム化するかの二択となる。しかも、UGNからの救援はおそらく間に合わない。

こちらには敵を一撃で葬れる技があるが、おそらくあの衝撃波のよくなものに阻まれる。

まさしく、四面楚歌。

だが、僕の頭の中には、一つだけ、たった一つだけこの最悪な状況を打開する術が浮かんでいた。

(それしか………ない。)

決意とともに、口を開く。

「落ち着いて、聞いてくれる？」

自分でも驚くほど掠れた声が出た。

「……な、何……？」

その声から、何かを感じ取ったのか、唯も震える声で言葉を返す。

「このままじゃ、二人共………死ぬ」

「だから、僕がアイツを捕らえる。その間に唯はアレを使って」

「それはっ………！」

僕の言葉に、明らかに狼狽える唯。

それに構わず、僕は続ける。

「このままだと、手遅れになる。………大丈夫。絶対僕は生き残る。」

この会話を続けている最中にも、ジャーム化物の破壊は止まらない。

「………分かった。………でも！絶対！絶対

死なないでね！ 私を、置いて行かないでね！」

「うん。約束するよ。絶対、帰ってくる。」

決意を込めて、そう返す。

「じゃあ、行くよ！」

僕のその声を合図に、僕は化物の元へ駆け、唯は能力で長弓をその手に現出させる。

「  
ツツツ！！！！！！！！」

叫びと共に、射出される衝撃波。

その直撃を受け、全身が悲鳴を上げるも、スピードは緩めない。

「はっ！！」

高速移動によってももの数秒で敵に肉薄した僕は、その勢いのまま  
エフェクト  
能力を発動させる。

ダメージを与えるのが目的じゃない。

（僕の目的は……拘束！！！！）

瞬間、巨大な砂の茨が錬成され、僕もろとも敵を拘束した。

「  
！？」

まさか自分ごと拘束するとは思っていなかったのか、すでに理性もないはずの化物の顔が歪む。

しかし、もう遅い。

既に、唯の準備は終わっている。

しかも、この茨は使用するのに接敵する必要がある代わりに、絡みつかれた相手は体が硬直し動けなくなる特別製だ。本来ならば自分ごと拘束するなんてしないのだが、理性を失っているとはいえ、思考能力を持つ敵なので、この策を使う他無かった。

「行くよ！！」

唯の声と共に、最強の一撃が放たれる。

僕はギリギリのタイミングまで待ち、矢の直撃を確信すると同時、茨を解除し後方、即ち唯の攻撃の範囲外へと跳ぶ。

全ては、生き残るため。 99%無理でも、1%に縋ろうと悪あがきを敢行する。

だがそんな悪あがきを嘲笑うかの様に、閃光が僕の視界を覆った。



## プロローグ（後書き）

まどマギちゃんと見てないせいかなんかうろ覚えだ……。多少設定やセリフが違っているのはあまり気にしないでください。では、感想待っています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4065ba/>

---

交錯する世界

2012年1月10日19時56分発行